

現在、地神として土地豊饒と家宅の永安を守り、財を蓄え疫病を治すともいわれ、厄除け、開運、安産など諸願成就の信仰を集め、参拝客が絶えない。

また、境内にある梵鐘は、六道珍皇寺の「迎え鐘」^{ちんのうじ}に対して、「送り鐘」と呼ばれ、死者の霊を迷わず冥土へ送るために撞く鐘として、死者が出たときやお盆に撞く慣わしがあり、人々から信仰されている。お盆の精霊送りには、多くの参拝者で賑わい、精霊を送りに多くの参詣客が訪れて鐘を撞く。その鐘の音色は、先祖への思いを深く感じさせる。



写真2-7 冠者殿社

イ 祈りの場に見る歴史的風致

京都には古くから、まちのそこそこに庶民の信仰を集めた寺社や町堂とでもいうべき寺院が数多くあり、地域の中心的な役割を担っているものがある。また、生業という視点から人々の信仰を集めている寺社なども数多くあり、古くから庶民の参詣で賑わってきた。これまでにあげた寺社の他にも、京都の歴史ある寺社には、古くから語り継がれてきた様々な言い伝えを持ち、それが現在も信仰心として受け継がれているところが数多く残っている。近くのお寺さんの読経の声や木魚の音、ご近所の人々が通りがかりにお参りされるお宮さんの鈴や柏手の音は、現在もなお人々の信仰心が深く生活に根付いていることを感じさせている。



図2-8 矢田寺・冠者殿社



写真2-6 矢田寺